

春季神奈川県大会 ベスト4

セイスポ

星槎スポーツ新聞

第11号 ★ 2017年6月5日(月)

星槎グループ セイスポ編集部発行
神奈川県 中郡大磯町国府本郷 1805-2

SEISA



慶應義塾戦に勝利 ベスト4

春季神奈川県大会 結果

- ◆ 2回戦 湘南台 5-1
- ◆ 3回戦 川和 5-2
- ◆ 4回戦 日大藤沢 4-3
- ◆ 準々決勝 慶應義塾 3-1
- ◆ 準決勝 横浜 0-10

地区予選を2勝1敗で終え、4月16日 春季神奈川県大会が開幕した。2回戦の湘南台高校戦は1回終了で9対0と幸先の良いスタートとなる予定だったが、直後の豪雨でノーゲームとなった。15日に行われた再試合では、1回から大城のタイムリーヒットなどで2点を先制すると、流れを渡すことなく5対1で勝利。3回戦の川和高校戦(保土ヶ谷球場)でも勢いそのまま5対2で勝利した。

第2シード獲得をかけた 強豪日大藤沢高校戦

4回戦 日大藤沢戦(横浜商科大学野球場)では、初回、先頭の倉(2年)が四球で出塁し、いきなり無死1塁というチャンスを作るが、2番有賀(3年)が送りバントを失敗し、活かすことができず無得点に終わった。

相手のミスを助けてしまい、嫌な雰囲気立ち込める。星槎の先発は本田(3年)、ベストピッチングとまではいかないものの、今大会のなかでは内容の良い投球だった。球威はもう一つ力が出し切れなかったが、低めとコースを丁寧に投球は相手に単発は許しても連打を許さなかった。

3回に1点を失うものの、5回にはセンター小倉の勝ちを意識しすぎて力んでしまった本田は、投球に修正を加え、延長10回と11回をピシッと抑えた。勝負が決まったのは延長11回、先頭の6番神尾(2年)がセンターオーバールの2塁打で出塁すると、その後送りバントで1死

春季神奈川県大会

のレーザービームによる本塁刺殺もあり、8回を無四球で1失点に抑える。相手投手は延長11回を四死球2という抜群のコントロールに135km前後のストレートとスライ

ダーを武器としているエースの新村。攻撃陣は新村に5回まで安打2本のみと完璧に抑えられた。しかし、迎えた6回、先頭の9番金子(3年)が右中間を深々と破る2塁打を放つと、続く1番の小倉がきっちり送り1死3塁、そして2番有賀が名

誉挽回のレフト前にタイムリー安打を放ち同点とした。更に四球と失策が絡んで1死満塁となり、5番大城(3年)のセカンドゴロの間に3塁走者が生還して2対1と勝ち越しに成功する。

8回にも4番松下(2年)の2塁打と5番大城のセンター前安打で1点を追加した。このまよいけるかと思われたが、さすがは強豪日大藤沢高校。

迎えた9回、本田が突如崩れた。先頭打者を見逃し三振で打ち取ったあと、6番打者にレフト前の安打を許し、そこから3者連続の四死球で1点を相手に与え、なおも1死満塁の一打サヨナラのピンチを招く。迎える打者は日大藤沢のリードオフマンで好打者の1番菅原。

この好打者をなんとかライトフライに打ち取り、犠牲フライの1点のみの追加に抑え延長戦に突入した。

勝ちを意識しすぎて力んでしまった本田は、投球に修正を加え、延長10回と11回をピシッと抑えた。勝負が決まったのは延長11回、先頭の6番神尾(2年)がセンターオーバールの2塁打で出塁すると、その後送りバントで1死



盗塁を阻止

3塁とし、続く8番本田のセカンドゴロで三本間に挟まった神尾が相手のミスを誘い1点の勝ち越しに成功した。その裏、この1点を守りきり試合終了となった。

初のベスト4、第1シードをかけた 強豪日大藤沢高校戦

ベスト4をかけた準々決勝の慶應義塾高校戦(保土ヶ谷球場)。星槎の先発は本田(3年)。

立ち上がりから球威のあるボールを連発し、相手にバッティングをさせない。6回以外のイニングで連打は許さず、長打も1本のみという抜群の内容で9回を投げきり、6安打1失点1四球11奪三振とほぼ完璧な結果を残した。最速は146kmで、9回に入っても145kmを連発していた。

また、センター小倉(2年)やセカンド金子(3年)、ショート神尾(2年)、ファースト松下(2年)のファインプレーや、他にも当たり前の打球を当た

た横濱高校(保土ヶ谷球場)。

3塁とし、続く8番本田のセカンドゴロで三本間に挟まった神尾が相手のミスを誘い1点の勝ち越しに成功した。その裏、この1点を守りきり試合終了となった。

初めに処理したりと、バックが投手を盛り立てることができた。攻撃面では相手投手の立ち上がりを見事にとらえ、1、2回で長短打を5本まとめて3点の先制に成功し、試合を優位に進めることができた。ただ、相手投手にエンジンがかかった4回以降は突然攻撃が雑になり飛球アウトが増えてしまった。4回以降15アウトのうち9アウトがフライアウトであった。

淡泊な攻撃は相手に重圧がかからず、相手打線に勢いがつくことがある。点数は入らなくても嫌な攻撃を展開。ボディープローのようにスタミナや集中力を消費できる展開を作らなければならない。それが相手のミスを誘い、点数に繋がるときもあるからだ。

強豪 横濱高校との戦い
初の決勝戦をかけた対戦したのは、昨秋、コールド負け目前まで追い込まれた横濱高校(保土ヶ谷球場)。

この試合では終始、横浜高校のペースでやられてしまい、星槎の良さを出すことが全くできなかった。当日は、外野席も開放になるほどの観客で保土ヶ谷球場は超満員。横浜の大応援団が強い圧力をかけ続けた。横浜高校と一戦交えることへの緊張感と球場の緊張感漂う雰囲気、立ち上がりから選手に重圧となり、普段の力がだせないまま試合は進んでいった。夏の横浜スタジアムは3万人以上が入る。これは乗り越えなくてはならない。

「甲子園で最初に戦うのは対戦相手ではなく、球場の雰囲気だ」と現役のときによく言われたことを実感した瞬間だった。

打ち取られ得点ができなかった。今回、特別な思いで大会を迎えた選手がいる。昨夏、チームが敗戦し先輩が引退すると、土屋監督から寮長を命じられた3年生の松井俊だ。この大会を最後に学生スタッフとなる。「人として成長したい」と星槎に入学し、Bチームのキャプテンまで上り詰めた努力の人だ。春の地区予選で奇跡の大会初ヒットを放ち、チームメイトが松井の全力な姿に感動した。



魂のヒット 松井俊 選手

松井にとって「最後の打席」と告げられた川和高校戦。チームメイトは松井のために応援歌を作り、「チャンスを一つ」と松井に打席を回そう」とミーティングまで開かれた。松井は「24」の背番号を堂々と身にまとい、出場の機会を待つ。迎えた8回、「代打、松井」と球場に響くアナウンス。

3年間の思いを胸に打席に立った松井は、魂のフルスイング。その打球はライト前へ。まさに、チーム全員で打った「魂のヒット」だった。

グラウンドで輝く選手、ベンチで活躍する選手、スタンドで声を枯らして応援する選手。全員で掴んだ夏のシード権、初のベスト4だった。

(星槎国際湘南野球部
コーチ 佐々木勇人)

未来に向けて
スポーツを超えミャンマーオリンピック委員
会と「Myanmar Japan
Sports Collaboration」
の協定を締結

2017年4月、星槎グループ会長の宮澤保夫氏が3月に引き続きミャンマーを再度訪問、ミャンマーオリンピック委員会(MOC)と協定書を交わした。本協定書はエリトリアやブータンと同じく、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会を契機として、さらに未来へと続くスポーツを通してミャンマーの青少年育成と両国の友好を目指したものである。

本協定に基づき、第10号でも紹介した村田剛さん(東京農業大学卒、35歳)がすでに現地入りし、ミャンマーの陸上競技ナショナルチームのコーチとしての活動を開始している。村田さんはまずは8月にマレーシアで開催されるSEA Games(東南アジア競技大会)を目指してミャンマーの若きアスリートたちのため、毎日共に汗を流している。大会へ向けた中国・昆明への高地トレーニング遠征にも同行の予定。また6月には同大会へ向けたミャンマーの柔道チームの日本でのトレーニングキャンプの要望に対して、星槎道都大学での受け入れを決定。高校生への奨学金プログラム等も進めており、事前キャンプ協定締結を含め今後一層の協働が期待される。

エリトリア国、第26回
独立記念式典に正式招待

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の事前キャンプ協定を星槎グループおよび神奈川県各自治体と締結しているエリトリア国。1991年に独立したアフリカの中でも最も若い国のひとつである同国は5月24日に第26回の独立記念日を迎える。スポーツを中心とした支援を続けている星槎グループ会長の宮澤保夫氏は同国政府より招待され、この独立記念の式典に出席するため首都アスマラを訪問する。今回の訪問には星槎グループの創作和太鼓

集団、打鼓音も同行。アスマラの各所で和太鼓演奏を披露する。とくに会場のひとつである「シネ・ローマ」はオール・デコ様式の建築として名高い。このシネ・ローマをはじめ、アスマラは20世紀前半、イタリアの植民地時代につくられた当時ヨーロッパでも最新のトレンドだったオール・デコ建築が数多く残るアフリカばかりでなく世界的にも有数の景観都市として評価され、世界遺産として登録される見込みであり、今後世界的に注目を集める都市となるはずである。

陸上部の歴史と伝統の始まり

陸上部は、エリトリア留学生2名と新生3名の仲間が加わりスタートした。

インターハイ予選の西部地区予選の前に4月22日に平成国際大学の主催する記録会で、アヌール・モハメド・アタ(1年)が日

本で初のトラック公式試合に1500mで出場し、大塚光司(3年)が初の3000mに挑戦した。

アヌールは、日本に來日して、初めてのトラック公式試合。レース内容は美業団大学生に交じって走ったが、経験不足も

あり、走る位置取りも悪く、思った走りができず満足できるレースではなかったが、5月3日(水)4日(木)に行われるインターハイ予選に繋がる走りができたと思う。

大塚は初の3000m障害(ステイプル・チェイス)に挑戦した。この種目は、1周(400m)に障害4つ、水濤が1つで計7周の、障害(28回)、水濤(7回)を飛ぶ過酷な種目だ。



高校総体予選 アヌール選手

インターハイ予選に向けて、経験を積む事ができたので、この経験をしっかりと活かしていきたい。

5月3日、4日には2017年高校総体神奈川県西部地区予選が行われた。エリトリア留学生のアヌールが出場した1500mは、予選、決勝と2本レースを行い、大塚光司(3年)が5000mに出場した。

2日目は、5000mに3年大塚光司が出場した。前日の試合の疲れはなく、大きく崩れることなく、後半粘りの走りでも順位をあげた。県大会の出場はできなかったものの2種目を走り切れた自信と、今後の課題も分かった。本人は次の目標に気持ちを切り替えていた。

800mに1年生のアヌール・モハメド・アタと、石原新史が出場した。800mは、走る格闘技

とも言われ、試合中に体と体のぶつかり合いなど、位置取りが重要になる競技なので経験も必要だ。その中で石原は、レース内容は良いとは言えなかったが、練習不足にもかかわらず、中学時代全国大会に出場したことがある選手なので焦ることなく、今の持てる力を出せたと

思う。今後の課題は、継続した練習と経験を積んでいく。アヌールについては、失格という結果になったが、手元のタイムでは2分03秒と県大会には出場できるタイムで、この悔しさをバネにして県大会の1500mに臨んでほしい。

日本では、ルールを知って、いて当たり前なことだと思いき、留学生にしっかりと説明できていなかった。県大会では、同じ失敗がないよう、スタッフもしっかり準備をしていく。

4年連続全国大会を目指して



星槎国際高校 福岡中央学習センター野球部

純粋に「野球がしたい」という思いのあが選手が多く、それが全国大会へ繋がっているような気がする。そんな集団だからこそ、短い練習時間でも濃い練習ができていて、グラウンドや道具がなくても、動きのシミュレーションや体の使い方を頭で学び、試合に生かせる選手になるようイメージトレーニングの実践をしている。今年度は特に、星槎湘南硬式野球部のビックニュースを聞き、切望されていることに、福岡中央野球部の志気も上がっている。年々、定時制通信制軟式野球のレベルが上がってきている中、まずは1試合を大事に勝ち上がり、4年連続全国大会出場に向けて、気持ちもきっちり仕上げていきます。

(監督 坂本鉄兵)

今年で野球部創立4年目に突入。幸運なことに、創部した年から3年連続で定時制通信制軟式野球全国大会へ出場している。まだ伝統と言える歴史があるようなチームではないが、毎年、色の違う良いチームに仕上がること、新鮮さを感じながら、今年はどう戦おうかと選手と共に作戦会議をしている。私たちのチームは、とりわけ高い能力のある選手がいるわけでもなく、ただ

起動せず、10点差ほど点が開いたが、後半逆転する要素を残しながら前半を終えることができた。相手の戦術は映像などで予め研究していたので、1人ひとり思い出して確認をさせながら、後半の戦いに備えていった。後半はオフフェンスを修正し、外から中からと相手ディフェンスを翻弄するようなプレーを選手達に作らせた。ノーマークを作ろう。」という目標を選手たちは忠実に実践し、相手のディフェンスの弱点を何度も攻撃することができた。これは練習で行ったときよりも、正確にできていた。点差が少しずつ離れていく中、諦める事もなく、コートでプレーする選手、ベンチで

星槎道都大学野球部に6名のマネージャーがいて、選手たちを裏からサポートしている。その6名を束ねているのが、「主務」という仕事を担う久保直輝くん(八雲高校出身・経営学科3年)。

ももとは久保君自身も高校球児であったが、「プロ野球の審判になりたい」という夢をかなえるため、星槎道都大学野球部にマネージャーとして入部した。

マネージャーの仕事は、リーグ戦がある時には朝7時から始まる。自分の大学の試合が午後からだろうと、この時間に集合し、球場の設置や掃除、大会本部の準備の仕事をこなし、選手が球場に到着するまでにドリンクの準備や救急用品の準備を終える。試合中はスコアを付け、試合終了後は後片付けと翌日の準備を行い、帰宅する

の19時から20時となる。「選手が野球がしやすい環境を作り、自分たちは野球以外の仕事をするのが仕事」と笑顔で語る久保君。選手の人数分(約130名)だけ、大学への各種届出の用意や試合の入場券の準備も行う。プロ野球チームのスカウトやマスコミ対応も重要な仕事の一つだ。

3年生であるがために、4年生選手への対応で苦労がないわけではない。しかし「社会人として必要なマナーや言葉遣いまで学べて、しかも好きな野球に携われる喜びは何ものにも替えがたい」という久保君の顔には裏方のプロとしての自信とプライドがうかがえた。



久保直輝くん

男子バスケットボール専攻
初の公式戦

2017年5月20日、男子バスケットボール専攻初の公式試合は、神奈川県インターハイ予選からスタートした。一回戦目の対戦相手は、栄光学園高校で、2メートル

の選手を要する強豪チーム。序盤はキャンブテンの神山歩夢、生井龍大が3ポイントを決め、得点を量産していった。3年生主体のチームによく食らいついていったと思う。前半終了間際の相手のディフェンスが少し変化したが、オフェンスが

起動せず、10点差ほど点が開いたが、後半逆転する要素を残しながら前半を終えることができた。相手の戦術は映像などで予め研究していたので、1人ひとり思い出して確認をさせながら、後半の戦いに備えていった。後半はオフフェンスを修正し、外から中からと相手ディフェンスを翻弄するようなプレーを選手達に作らせた。ノーマークを作ろう。」という目標を選手たちは忠実に実践し、相手のディフェンスの弱点を何度も攻撃することができた。これは練習で行ったときよりも、正確にできていた。点差が少しずつ離れていく中、諦める事もなく、コートでプレーする選手、ベンチで

応援する選手、監督、応援に来てくださった関係者の皆様が一体となって逆転することを信じて戦ったが、最終スコアは51対80と力及ばず、敗退してしました。

しかしながら振り返ると収穫の多い試合だった。まず彼らには少なくともあと2回同じ試合に出るチャンスがあること。3年生主体のチームに50点をとれていること。そして一番の収穫は誰一人諦めず最後まで走りきっていたこと。

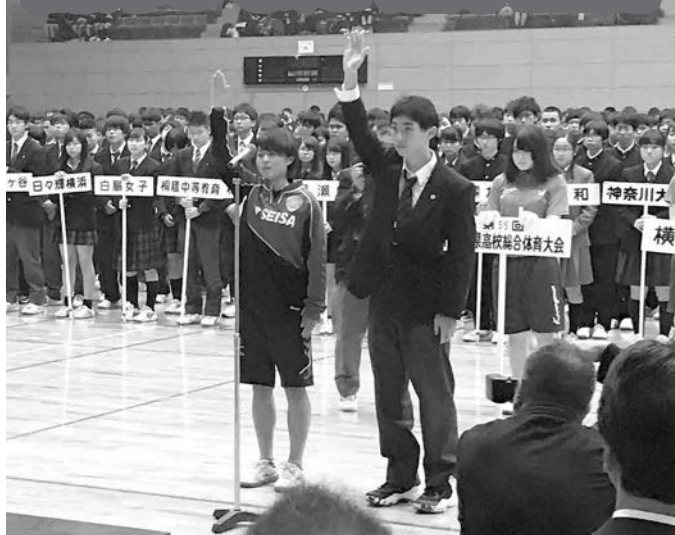
「見ている人を感動させて、バスケットをしよう。そんなチームを君たちと作りたいんだ。」去年の生徒募集で、星槎に決めた生徒たちとの面談で何気なく話した言葉を、

生徒たちは初めての公式戦で実践してくれた。これは試合に勝利することよりも大切なことかもしれない。いくらバスケットの技術が高くて、人に感謝することを忘れてはいけなく選手たちには常日頃から、口を酸っぱく伝えている。バスケットの技術とそれ以外のバスケットに取り組む姿勢を見直す機会を得ることができた試合だった。

翌日には練習を再開し新たなスタートを切っている。次の新人戦に向けて、またチーム一丸となって戦っていきたい。応援に来ていただいた井上理事長をはじめとした関係者の皆様には本当に感謝している。これからも応援をよろしくお願いします。

高校総体開会式

宮澤ひなた 選手宣誓



高校総体開会式で選手宣誓

普段は陸上競技場での開会式が施設整備のためアリーナでの式となった。参加人数も縮小したのでスケールダウンした式になるかと思ったら1300人を超える生徒が集まると会場が小さい分、前に

参加したときよりも迫力を感じた。今回、光栄にも選手宣誓を主将の宮澤ひなたが任せられ「どんな困難な場面でも相手を想いやり、笑顔と勇気を持って立ち向かい日頃の感謝の気持ちをプレーで表現

前進する。ラインが高いためうちのスピードのある攻撃陣は面白いように裏に飛び出し、気づけば前半で大量点を奪った。後半、控え選手を投入するが勢いは弱まらない。準決勝としては異例の17得点を奪い3年連続で決勝の舞台へ行くことができた。

地域に必要とされる人間づくり、サッカー面では世界で活躍できる選手の輩出が目標でここまでできた。身近で強力なライバルである湘南学院に勝つことを考え、着実に成長してきたと思う。サッカーのコンセプトを変えずに戦いを続け、今回の試合は点差こそ2点差だったが決められるところを決めれば大差のつく内容だったと思う。今、選手たちは10点の差をつけられたところから、10点の差をつけられるところまで成長してきた。

ニュース速報

宮澤ひなた U-19日本女子代表に選出

女子サッカー専攻の宮澤ひなたがU-19日本女子代表に選出。ゼッケン「9」を背負い、アメリカ遠征の初戦で得点し勝利に貢献した。詳細は次号で。

OSA FC U-15の活動

OSA FC U-15では中学1年生から3年生までの子どもたちがサッカー選手として、また1人の人間として成長するために活動をしている。週末には各学年の練習試合やリーグ戦があり、春には3年生が主体で挑む全国クラブユース選手権、秋ごろには高円宮杯に参戦している。これらの試合でトレーニングの成果を出すため、日々切磋琢磨し練習に励んでいる。また、サッカーだけでなく大磯町で行われるスポーツ、ビーチイベントなどにも積極的に参加運営し、地域交流も中学生の成長を促す大きな役割として位置づけている。

OSA FC U-15の選手たちは、サッカーができる環境に感謝し、また誠実で素直な人間でなければ

サッカー選手としても成長できないことを理解し、日々の活動に尽力しています。

星槎厚木総合グラウンド 球場開き

5月5日こどもの日に星槎国際湘南野球部念願の専用グラウンドの球場開きが開催された。宮澤会長、井上理事長をはじめ約100名の学校関係者が野球部員に対して大きな期待を込めて激励をした。今後、野球部は学校法人国際学園が所有する星槎厚木総合グラウンドに新たな練習拠点を構え、春季県大会の4強以上を目指して本番の夏に向けてスタートを切った。狙うは『夏の頂点』であり、甲子園初出場を目指してチーム全員一丸となって取り組んで行く。

149キロ右腕 星槎道都大学 藤塚卓志

182センチ、88キロの恵まれた体格を誇る本格派右腕の藤塚卓志が注目を浴びている。最速149キロ右腕がプロ入りの切符をつかむため一戦一戦を全力で駆け抜ける。

応急処置について『RICE処置とは?』

オピニオン

星槎国際湘南
女子サッカー部
専属トレーナー

池田 香

捻挫や打撲をしてしまった時、しっかりと処置ができていますか？

ちょっとした捻挫ただけだからいいや！と考えている人もいるかもしれませんが、しかし、症状が軽い・重いに関係なく迅速で適切な応急処置をすることでその後の回復力(復帰にかかる期間)が変わってきます。そのためには怪我した時にしっかりRICE処置をすることが大切です。

「R」はRest(安静)言葉の通りまずは安静にすることが大切です。患部(ケガをしてしまった部位)を動かさないようにするのはもちろん、全身の動きを止めてあげることも大切です。身体の運動を止めて患部に流れる血流を抑制しましょう。

「I」Ice(冷却)患部の炎症を抑えるために冷やします。氷をビニール袋や氷嚢に入れてアイスパックを作って冷やしましょう。または足首など体の末端部であればバケツに氷水を入れてアイスバケツを作りアイシングします。冷やすことで患部の炎症(熱感や腫れ)を抑えることができます。

「C」Compression(圧迫)患部が腫れないように圧迫を行います。バンテジやテーピングで圧迫をしましょう。

「E」Elevation(挙上)患部を心臓よりも高い位置に挙上しましょう。患部に流れる血流を抑制します。この4つすべてができるのが一番良いですが、環境によってすべてができないのであればどれか一つでもいいので応急処置として行いましょう。

「アイシングはどれくらいの時間冷やしたらいいのかわかるか?」アイシングの時間は15〜20分くらい目安はありますが、あくまでも目安です。状況によって時間は変わります。ラインが高いためうちのスピードのある攻撃陣は面白いように裏に飛び出し、気づけば前半で大量点を奪った。後半、控え選手を投入するが勢いは弱まらない。準決勝としては異例の17得点を奪い3年連続で決勝の舞台へ行くことができた。

「アイシングはどれくらいの時間冷やしたらいいのかわかるか?」アイシングの時間は15〜20分くらい目安はありますが、あくまでも目安です。状況によって時間は変わります。ラインが高いためうちのスピードのある攻撃陣は面白いように裏に飛び出し、気づけば前半で大量点を奪った。後半、控え選手を投入するが勢いは弱まらない。準決勝としては異例の17得点を奪い3年連続で決勝の舞台へ行くことができた。

「アイシングはどれくらいの時間冷やしたらいいのかわかるか?」アイシングの時間は15〜20分くらい目安はありますが、あくまでも目安です。状況によって時間は変わります。ラインが高いためうちのスピードのある攻撃陣は面白いように裏に飛び出し、気づけば前半で大量点を奪った。後半、控え選手を投入するが勢いは弱まらない。準決勝としては異例の17得点を奪い3年連続で決勝の舞台へ行くことができた。

「アイシングはどれくらいの時間冷やしたらいいのかわかるか?」アイシングの時間は15〜20分くらい目安はありますが、あくまでも目安です。状況によって時間は変わります。ラインが高いためうちのスピードのある攻撃陣は面白いように裏に飛び出し、気づけば前半で大量点を奪った。後半、控え選手を投入するが勢いは弱まらない。準決勝としては異例の17得点を奪い3年連続で決勝の舞台へ行くことができた。

星槎 教師 列伝

負けても負けても あきらめない NODAレーシングアカデミー 校長 野田英樹



野田英樹は大阪府出身。後にモータースポーツ最高峰のF1に乗ることになる野田少年はそれほど飛び抜けた存在ではないサッカー少年だった。ただし、その頃の遊びはというと、大工であった祖父に材料をもらい、自分で搭乗可能な小さな車を作った。坂を猛スピードで駆け下りるというものであった。「車輪がプラスチックだったから、めっちゃコーナで滑ってドリフトしたんですよ」と当時のヤンチャな振り返る。

転機は中学生のときに訪れる。母親が雑誌で近くにカートのサーキットがあることを知り、車に興味のある野田に教えたのだった。そこからモータースポーツにのめり込んでいく。「好きなことだから続けたい」という強い意志を持ってやってきた。やりたい、あきらめないという気持ちを行動や言葉に出すことでブレな影響を与える。母がカー

トのことを教えてくれたのも、僕が車が好きだということを発表していたから。そして、F1のシートを得たとき、心に浮かんだのは夢見たことが叶った喜びと応援してくれた周囲への感謝だった。現役を引退後、こどもたちにモータースポーツを教える「NODAレーシングアカデミー」を設立する。自身が中学生のときには、モータースポーツを理解してくれる先生がいなかった。本格的にやればやるほど練習などで学校を休まねばならず、その度に暴走族のようなことはやめなさい、車が好きならドライバーに就く道を探しなさいなどと言われ続けたことが心に残っていた。娘がカー

トに興味を持って、小さなサーキットに顔を出すようになり、同じような親御さんの話を聞く、なんと自分が中学生だった頃と学校の受け止め方はまったく変わっていった。若い世代がやりたいことにどんどん挑戦できる環境が作れないだろうか。社会を変えていくために「自分が適任かどうかはわからない。でも結果であってマイナスにはならないというポジティブな気持ちで挑戦してほしい」と話してくれた。

セイスポ



女子サッカー専攻 優勝 3年連続優勝

今回の試合は相手がフォーメーションを変えてきました。しかし、選手たちはその上をゆくモ

ビリティで相手のフォーメーションの弱みをつくることが出来ました。前半からスタートダッシュをかけたがさすがは湘南学院。簡単にはゴールをさせてくれません。12本シュートのほとんどがペナルティエリア内で崩した決定的なものでしたが無得点。こうなると何をやっても入らなくなるのがサッカーの怖いところ。後半も普通には入りませんが期待の先取点は加藤が放ったシュートをセーブされた後、こぼれ球に反応した宮澤のゴールでした。途中PKを取られてしまい詰め寄られますが一年生の黒古がダメ押し点とも言えるタイミングでゴールをし、そのまま試合終了しました。シュート数24対7の圧倒的な試合でしたが点差は2点という課題の残る試合でした。

優勝し喜びを爆発させる女子サッカー部

男子サッカー専攻

創部初 神奈川県 ベスト8



準々決勝に挑む男子サッカー部

平成29年度 関東高校サッカー大会 神奈川県予選が4月8日から行われた。予選はAからHブロックに分かれ、各校はブロック突破を目指して熱戦が繰り広げられた。

関東高校サッカー大会 神奈川県予選

初戦は4月15日(土)、春の風が騒ぎ、強風の中での試合となった。星槎は試合開始直後からMF重松にボールが集まり、そこからテンポよくボールを動かし相手ゴールへ迫る。前半17分、MF重松が技ありの仕掛けで相手を抜き去りシュートを放つがポストに嫌われる。その後押し込む時間帯が続くが、なかなか得点を奪えない。局面を打開したのはMF齋藤実裕。左サイドからドリブルで持ち込み、相手の股下を抜く技ありのシュートで

ブロック優勝を目指して

先制点を奪うことに成功した。その後もチャンスを作るが得点を奪えない。前半はそのまま星槎ペースで展開し、後半へ折り返した。

後半、立ち上がりには嫌な形でセットプレーを続けて与えてしまい、ピンチが連続してしまふ。しかし、GK佐野を中心にゴールを守り無失点に抑える。この日は全体的に試合のペースを握るがミスが多くなってしまった。終盤にセットプレーのルーズボールをDF山田が豪快にボレーシュートを放ち、ダメ押しの追加点をあげる。そのまま2対0で試合終了のホイッスル。難しい初戦を無失点で勝ちきることが出来た。

ベスト16をかけた 秦野高校戦

翌日の4月16日(日)、昨年の戦績と同じベスト

16をかけた秦野高校との試合は、気温がぐっと上がり汗ばむコンディションとなった。秦野高校は自主性を重んじ選手主体で活動している。

この試合、星槎イレブンは相手を上回る自主性を発揮し、80分間ピッチ上で躍動し続けた。試合開始から終了のホイッスルまで安定した展開で試合を進めることが出来た。得点こそMF重松の1点で終わってしまったが、力のある相手をチーム全員で組織的な厳しい守備を徹底してしっかりと封じ込み、無失点で終えたことは次への自信と繋がった。

初戦のベスト8を
湘南工科大付属高校戦
サッカー部としての最高戦績はベスト16。チームの歴史を塗り替えるベ

クミスを誘いイーブンに戻す。そして、6本目にドンピシャりと相手キックをストップして創部初のベスト8の切符を勝ち取った。

前日に先にベスト8を決めた野球部も駆けつけてくれたスタンドとピッチの一体感が相手を上回る結果となった。過去3回ベスト16という壁に跳ね返されてきたが、大きな壁を乗り越えることが出来た。

公立高校の雄
座間高校戦

関東大会の代表権を勝ち取るための挑戦権をとるためには絶対に負けられない準々決勝戦。対戦相手は公立高校の雄、座間高校。気温が上がり、南の強風が吹き、厳しい戦いが予想された。

前半、風上を取った星槎。風を味方につけて相手陣地へ押し込む。コーナーキック、相手のファールを誘いセットプレーでチャンスを出す。しかし、肝心のプレスキックのミスが目立ち得点に至らない。逆に前がかりになってしまった背後を突かれ、失点のしそうな場面を作られてしまふ。

この試合でもGK佐野のファインプレーでしのぐ。その後も前半は好機を作るが得点を奪いきれない。後半、風下になり押し込まれるが、シンプルに攻撃を展開してくる相手に対して、DF畠山、DF山田が空中戦を制す。隙

を見せってしまった後半12分、足が止まってしまったDFの背後へ絶妙なパスが来ると相手にGKと1対1の場面を作られてしまふ。ここでもGK佐野が体を張りゴールを守りきる。

一進一退の展開を繰り返すが後半残り時間5分。戻りながら慌てて守備の対応をしてしまい相手左サイドの嫌な位置で相手にフリーキックを与えてしまふ。何としてでも守りたい星槎。決死にゴールを守ったが、このフリーキックから混戦を相手に押し込まれて痛恨の失点を許してしまふ。

残り時間わずか、得点を奪いに長身のDF畠山、DF山田を前線に上げてパワープレーに出て最後の最後まで相手ゴールを脅かしたが、得点を奪うことが出来ずベスト8で涙を飲んだ。

試合後の選手たちからは大粒の涙が溢れていた。しかし、全体ミーティング後、キャプテン中心にしっかりと前を見据え次の一歩を踏み出していた。6月から行われるインターハイ予選に期待したい。



男子サッカー部 大応援団